

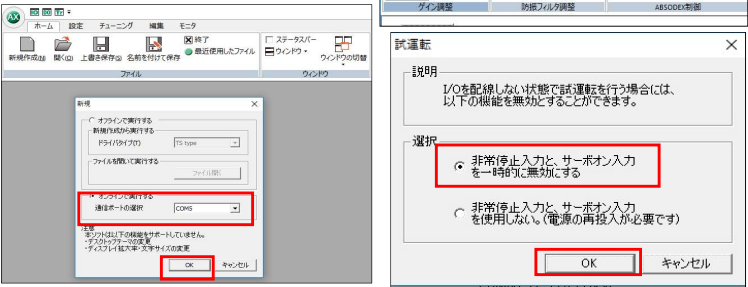
ABSODEX TS・TH・XS・MUタイプ 簡易スタートアップ(試運転)資料



- 1.アプリケーションソフト(AX-Tools)をパソコンにインストールしてください。
- 2.主電源ケーブル・制御電源ケーブル・レゾルパケーブル・モータケーブル・アース線を配線ください。UVW線の配線順にはご注意ください。パソコンとドライバ間の通信ケーブル(CKD専用)・USB変換ケーブルを配線してください。

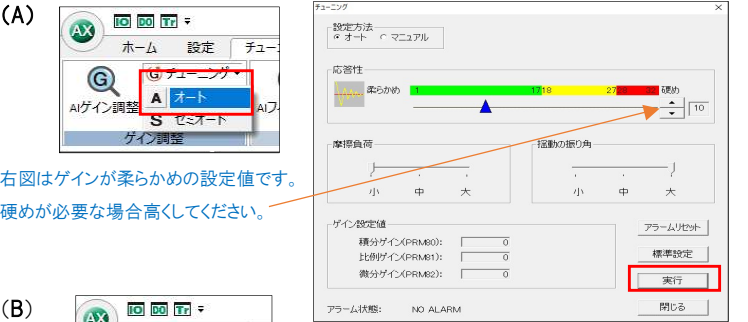


- 3.AX-Toolsを実行します。
- 通信ポートを選択し、「オンラインで実行する」・「OK」を選択します。
- 一時的に非常停止入力、サーボオン入力を無効にします。
- AX-Toolsの「チューニング」→「試運転」で設定ください。



- * 非常停止入力・サーボオン入力を有効にする場合は電源を再投入ください。
- 4.ゲイン調整を実施します。
- ・TSタイプ・MUタイプ・XSタイプでは、オートチューニング(A)を推奨をします。
- ・THタイプでは、オートチューニングできません。AIゲイン調整(B)を推奨します。
- ・動作範囲限定または低剛性のため、オートチューニングができないとき(C)を推奨します。
- ・共振している場合は、(D)フィルタ調整実施後、再度ゲイン調整実施ください。

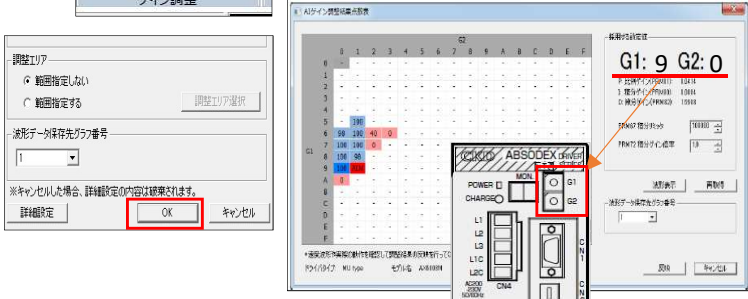
- (A)「チューニング」→「チューニング」→「オート」→「実行」で開始します。
- セミオートチューニングでゲインアップができます。
- (B)「チューニング」→「AIゲイン調整」→「OK」で実行します。
- AIゲイン調整はディップスイッチの最適値を探します。
- (C)マニュアルチューニングにて、G1(応答性)G2(負荷慣性モーメント)を設定します。
- AX6000MUタイプでは、パネル正面にディップスイッチはありません。
- AX-Toolsで設定してください。
- (D)ゲイン調整ができない場合は低剛性のため共振している可能性があります。
- 「AIフィルタ調整」で防振調整を実施してください。



右図はゲインが柔らかめの設定値です。硬めが必要な場合高くしてください。

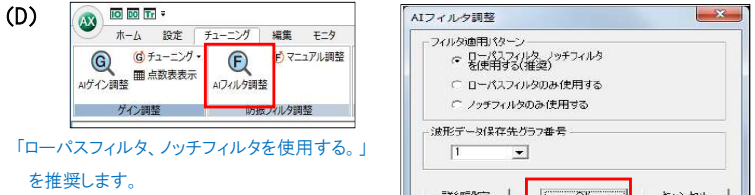
点数が表示されます。高得点ゲインを選択し、ドライバパネルのディップスイッチを変更するかまたは「反映」をクリックください。

後から調整が容易なディップスイッチ変更を推奨します。

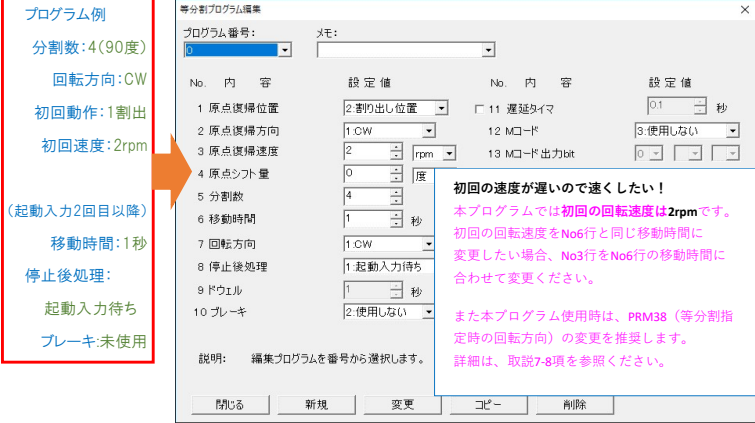


- (C---TS・TH・XSタイプ)
- G1:応答性(収束時間)
- 目安: 6~A
- G2:負荷慣性モーメントに応じて調整
- 負荷形状が大きければ高めにする

- (C---AX6000MUタイプ)
- 設定したゲインは、PRM101(G1ゲイン) PRM102(G2ゲイン)にて確認できます。



- 5.原点位置あわせをAX-Toolsの「編集」・「原点オフセット」から実施ください。
 - 電源再投入で有効になります。電源投入後、3項の「試運転」を実施ください。
- 「ローパスフィルタ、ノッチフィルタを使用する。」を推奨します。
- 6.AX-Toolsの「編集」→「プログラム」から試運転プログラムを作成します。
 - 作成後、編集画面を閉じて（「閉じる」をクリックする）、プログラムを「格納」ください。



- 7.原点復帰または上記プログラムを動作させ正常に動作するか確認ください。
- AX-Toolsの「モニタ」→「動作指令」から
- (A)「原点復帰」を選択して原点復帰を行います。
- (B)「プログラム番号選択」→「自動運転起動」を選択して試運転プログラムを動作させます。
- 同じプログラム番号であれば、以降は「自動運転起動」をクリックください。

